ANATOMOPATHO-LOGICAL STUDY OF COMPLICATION OF TUBERCULOSIS SEEN IN HUMAN LEPROSY (REPORT II)

KIMIO TAKANO

Bethlehem Sanatorium (Director: Dr. K. FUJII)

(Directed by Emeritus Prof. T. OGATA, Counsellor of National Institute for Leprosy Research)

The state of complication of tuberculosis in leprosy and the relation between leprosy and tuberculosis according to the disease types was further examined by histo-patho-anatomical examination as in Report I, of all the 450 autopsy cases of the National Oshima Seisho-en Leprosarium from 1924 to 1959.

Further, the process of the disease was examined by dividing into 3 stages, taking into consideration the influence of the period and of chemotherapy; that is, 1) before the introduction of chemo-therapy (stage of hydnocarpus oil therapy) (1924—1942)···before World War II; 2) after introduction of chemo-therapy (1943—1950)···during and directly after the War;

3) after chemo-therapy (1951—1959)···after the War.

Conclusion:—

1) Out of the 450 cases, there were 313 cases of the L-type (64.3%) and 137 cases of the T-type (30.6%), the L-type being over 2.3 times that of the T-type.

2) The percentage of combined tuberculosis was 77.2% (347 cases out of 450), 80.5% in the L-type (252/313), and 69.6% (95/137) in the T-type. Further, of the 252 cases of combined tuberculosis in the L-type, 84.3% was found in those before the war, 56.4% during the war, and 80% in those after the war; and of the 95 cases of combined tuberculosis in the T-type, the percentage was 70.8%, 76.6%, and 53% respectively, tuberculosis being found in more than half in both types.

3) As for the foci of secondary tuberculosis, similar to Report I, they were found in all the L-type cases. Moreover, in the T-type, 24% were healed in the stage of primary foci of the lungs, while 16/74, 21.3%···before the War; 13/45, 30%···during the war; and 3/8, 37.5%···after the War, i.e. over one-third were healed in the stage of primary foci of the lungs.

4) As for the frequency of tuberculosis, there were about 70% of severe cases in both L-, and T-types in the period before the War, but with the passage of years the absolute number of patients is decreasing conspicuously. In the L-type, severe cases of tuberculosis were found in 76.7% before the War, 81.8% during the War, and 56.3% after the War; while in the T-type it was found in 63.8%, 30.8%, and 12.5% respectively during the above periods, showing a marked decrease, being only 50% of the L-type in the latter half period. Many severe cases could be seen in both types, but with the progress of chemotherapy, the spread of BCG vaccination, and the improvement of nutrition, the mortality of both

leprosy and tuberculosis patients have shown a marked decrease.

The same tendency as seen in Report I was also confirmed, that is to say, the L-type which has a weak resistance towards leprosy has also a weak resistance towards tuberculosis, while the T-type more resistant towards leprosy, possesses a strong resistance towards tuberculosis.

人癩屍に合併した結核症の病理解剖学的 研究 第 2 報

高 野 公 雄

ベトレヘムの國療養所（院長 藤井清之）
（指導 国立らい研究所顧問 緒方知三郎博士）

緒 言

著者は第 1 報において報告せる如く類結核型癩が合併結核を著しく抑制していると言う結論を得たが、なお剖検観察例十分ならざるため今回は症例を追加し、第 1 報の諸事実を確認すると同時に化学療法前後の癩患者の結核合併状況を考察せんがために、国立療養所大島青松園の大正13年（1924）より昭和34年（1959）にいたる35年間の保存全部検材料 450 例について第 1 報に準じ検索を行った。

材料及び方法

上記大正13年より昭和34年までの全部検例 490 例中不詳、非癩例合計40例を除く 450 例を次の 3 期に従つて分類し化学療法^{1)・2)}、及び社会状態などの影響を考慮しつつ観察を進めた（表 1 及び 2）。

1. 化学療法以前（大風子油時代）、大正13年（1924）より昭和16年（1942）（18年間）第二次大戦前 359 例。
2. 化学療法以前（ク）：昭和 17 年（1943年）より同25年（1950）（9年間）大戦中及び直後 56 例。
3. 化学療法以後：昭和25年（1951）より同34年（1959）（5年間）大戦後 35 例。

さらに個々の剖検例の検索方法は第 1 報に同じである。

成 績

I 剖検材料の癩病型別比率（表 1 及び 2）：

全部検例 450 例中 L 型は総計 313 例，69.4%，T 型は

137 例，30.6%で L 型と T 型の比は 313:137 で，L 型は T 型の約 2.3 倍であつた。治療年代別に見ると（表 2）大風子油時代の戦前期では両型の比率は L 型は同期内全部検例 359 例中 254 例，70.6%，T 型は同じく 359 例中 105 例，29.4%，大風子油時代の戦中期では L 型 39/56，65.6%，T 型 17/56，30.4%で両型の比率は特に差異を示さない。化学療法以後では L 型 20/35，57.1%，T 型 15/35，42.9%と両型がほぼ全体の半数に近くなつてきている。

II 全癩屍結核合併率並びに治療年代別の観察：（表 1 及び 2）

結核合併例は全材料 450 例中 347 例，77.2%である。時代別に見ると戦前 288/359，80.3%，戦中 35/56，62.5%，戦後 24/35，68.6%と時代とともに減少の傾向を示したが^{1)・2)}、以来一般非癩者結核合併並びに死亡率の減少とほぼ平行している。

III 癩病型別結核合併率：L 型，全部検例 313 例中結核合併例 252 例，80.5%，T 型全部検例 137 例中結核合併例 95 例，69.6%，年代別には L 型戦前 214/254，84.3%，戦中 22/39，56.4%，戦後 16/20，80.0%，T 型戦前 74/105，70.8%，戦中 13/17，76.7%，戦後 8/15，68.6%と L 型と T 型との結核合併はともに 70～80%内外であつた。

IV 初期変化群について（表 2 及び 3）：

A 全時代を通じて L 型では初期変化群のみにて治癒せる例は全くなく，その全例が二次結核に移行するのを認めた。

B T 型では結核合併例 95 例中 23 例で，おおむね硬固

な小豆大以下の石灰化巣，被包癰疽化以外に特に病変の認められない初感染巣及び初期変化群のみにて完治を示していた。

C T型の初期変化群は時代別には戦前 16/74, 21.3%, 戦中 4/13, 30.8%, 戦後 3/8, 37.5%と検出率はやや上昇を示した。

V 二次結核症について：

A 二次結核進展率：L型では結核合併の全例が二次結核へ進展しており初期変化群のみにて治癒せる例を認めなかった。

B 病型別の考察。戦前は重症例がL型 164/214, 76.6% T型 47/74, 63.8%と両型とも過半数を占めるが，以後L型は戦中18/22, 81.8%，戦後9/16, 56.3%と幾分減少の傾向があるに反し，T型重症例は戦中 4/13, 30.8% 戦後 1/8, 12.5%と絶対数の低下とともに 著明な減少を示し，軽症例はL型戦前 35/214, 16.3%，戦中 4/22, 18.2%，戦後 5/16, 31.3%と約 2 倍の増加を示すが，T型では戦前 2/74, 2.7%，戦中 2/13, 15.5%，戦後 2/8 25%と 著明な軽症増加の傾向を示した。

重症例ではL型で戦前には肺癆 104例，腸結核性腹膜炎21例，腎結核 5 例，喉頭結核 5 例，骨結核 2 例，結核性脳膜炎 5 例，全身粟粒結核 9 例で計 164 例，76.6%に対しT型では肺癆 32 例，腸結核兼結核性腹膜炎 3 例，喉頭結核 5 例，骨結核 3 例，結核性脳膜炎 1 例，粟粒結核 3 例，計 52 例，54.7%でこの時代の結核多量死亡例が後半の観察例及び比率に大きな影響を与えている。

小 括

I 癰疽病型の比率はL型 313 例，T型 137 例で，T型の 2 倍強であつた。

II 結核合併は全部検例 450 例中 347 例，77.2%，約 8 割強であつた。病型別にはL型は全例 313 例中合併 252 例 (80.5%)，T型は全例 137 例中 95 例 (69.6%)であつた。治療年代別に見ると両型とも結核合併率は結核患者絶対数の減少とともに次第に減少の傾向が見られるが両型間に特に有意義の差を見出さなかつた。

III 結核病勢，進行状態についてはL型では戦前，戦後を通じて初期変化群のみにて治癒せし例は全くなく全例が二次的結核に進展増悪せるに反し，T型では化学療法以前においてさえ初期変化群のみにて治癒せる例は 16/74, 21.3%の高率を示し，以後戦中 4/13, 30.8%，戦後 3/8, 37.5%と治癒傾向の増大を示しており，T型において結核の抑制が極めて著明であつた。

IV 癰疽合併結核は一般非癰疽結核と同様に重症例が減少しているが，特にT型では重症例は戦前の 63.8%より

戦後 12.5%と激減し，軽症例は戦前 2.7%より戦後 25%と約 10 倍の増加を示した。

総括並びに考案

以上により第 1 報及び第 2 報での両観察群を一括して考案を加える。

I 癰疽での癰疽病型分類

観察材料での癰疽病型別の比，即ち，類結核型対癰疽型は第 1 報 (らい研群) 1 対 2.1, 第 2 報 (大島青松園群) 1 対 2.3 と近似している。これを日本全国癰疽療養所収容患者³⁾に比較すると，本報の類結核型は低率を示すが，大体，本邦の癰疽病型別を代表しているものと考えたい。

II 癰疽患者の結核合併率は両群とも 7 割から 8 割強で一般非癰疽結核と大差はない。¹⁾ 結核の死亡例が癰疽と共に年々著しく減少して行く事は一般社会状況の好転，化学療法の進歩，BCG接種の普及などによるものである事はいうまでもない。

III 癰疽病型別では結核合併は共に 7 割強でほぼ同率であつた。即ち結核感染の機会は癰疽病型に関係なく同率である。

IV 癰疽型癰疽にはその全例が二次結核へ移行し一般に重症例多く，初期変化群のみで治癒する例を全く見ない。即ち，癰疽型は結核が類結核型に比して著しく重篤である。一方，類結核型は初期変化群のみで完治するものが多く，著るしく結核を抑制しており，特に化学療法以後は類結核型の合併結核重症例は激減し同時に初期変化群のみにて治癒例の増加が著明であつた。しかし化学療法以前には両型とも重症例が全結核合併例の約半数を占める。この点大正～昭和初期の癰疽診断が適確であるか否か再考を要するものである。

V 癰疽化学療法前後の結核合併状況の比較 (表 4)

大島青松園群中戦前の癰疽解剖例 359 例と，戦後即ち昭和 26 年以後の大島青松園群 35 例とらい研群 66 例との合計 101 例とについて，化学療法の全く行なわれない時代と，比較的普及した時代における人癰疽での結核合併状況，特に結核の進展を癰疽病型別に比較すると，結核合併率は，戦前は 80.2%，戦後は 70.3%で 10%減少している。癰疽型では戦前 214 例，戦後 48 例中 100%即ち全例が二次的結核に進展しているのに反し，類結核型では戦前の結核合併例 74 例 (70.8%) 中 21.3% (16例) が，また戦後 23 例の結核合併例中 65.2% (15例) がともに初期変化群のみで治癒している。

初期変化群のみで完治した類結核型は戦後はらい研群では 8 割の高率を示し，また，大島群を加えても 6 割 5 分の高率である事は注目すべき現象であり，化学療法の

影響も考慮されるが、同療法の出現していない戦前においてすら 2 割強が初期変化群のみで完治している事実は化学療法のための影響でない事を強く物語り、(二次の神経癩を類結核型に入っていた昔日の癩診断を再吟味すれば更に高率を示すであろう) 類結核型癩が本質的に結核を抑制している事を確実に実証しているものである。

VI 癩屍の結核病勢判定の臨床的考慮:

癩腫型では結核が類結核型に比して重症の傾向がみられた事から癩腫型のみ大きく作用する特別の誘因として E. N. L. に注目する必要がある。E. N. L. (癩性結節性紅斑) による高熱食慾不振、また神経痛による不眠など結核増悪因子を考慮すべきであるが特に E. N. L. の記載が不十分であつたため今回は割愛した。なお、臨床的結核所見と本結論が意外に隔っているか、この点 X 線陰影他と実際の所見が一致せぬ事は当然であるので、この点は解剖例の増加と共に真実を明らかにされるものである。

VII 癩菌に対し抵抗の弱い癩腫型は結核菌に対しても抵抗弱く、癩菌に対して抵抗性の強い類結核型では結核に対しても抵抗性強く、合併せる結核を著しく抑制しているという結論を得た。

この事は人型結核菌、鼠癩菌によるマウス及びラットにおける交叉免疫実験²⁸⁾²⁹⁾においても組織学的に証明せられ、Fernández³⁰⁾始め柳沢³¹⁾³³⁾等の B. C. G. ワクチン接種により癩発病の予防が可能であるという諸報告、阿部³⁴⁾による人型結核菌と癩菌の両者に多くの共通の抗原性が認められている事などから本観察例において免疫学的にも矛盾なく一致している。

また組織学的所見からも癩と結核とが mycobacteria 症として同一生体反応に属し、緒方³⁵⁾、福士³⁶⁾、湯川³⁷⁾³⁸⁾、飯高³⁹⁾、高野、赤崎⁴⁰⁾等の鼠癩、人結核、鳥結核に関する諸実験から癩腫に代表される共生相が免疫、細網内皮系の機能亢進及び体質により増殖性結核に代表される類上皮細胞性肉芽腫、即ち肉芽相に移行し、また滲出性結核や E. N. L. で代表される滲出壊死相が崩壊した菌体内成分並びに抗原抗体反応の結果として出現し、これ等三病相は生体内に侵入した菌の耐久性並びに免疫、細網内皮系の機能及び体質等の生体の抵抗力との 2 要因により互に移行するという諸事実から考察しても前述の結論は全く適応され得るものである。

本検査群の結核病変は一般結核と異り癩性病変と結核性病変の中間あるいは移行を示す興味ある所見が見られたが日を改めて報告する予定である。

結 論

国立らい研究所病理学研究室における昭和30年7月以来3年間の全部検例66例及び国立療養所大島青松園の大正13年より昭和34年4月まで35年間の全部検例450例合計556例について病理解剖学並びに病理組織学的に癩と合併せる結核を検索した。癩の両病型の結核合併率は共に7~8割にしてほぼ同率であるが、癩腫型では全例が二次結核へ移行し、類結核型では化学療法以前に2割、同療法以後で6~8割が初期変化群のみで完治しているという事実を得た。

以上により癩菌に対し抵抗性の強い類結核型は癩菌に対し抵抗性の弱い癩腫型よりも一層結核菌に対して抵抗性が強く、癩腫型に比して著しく結核を抑制しているという事実を得た。

(本論文の要旨は一部第15回医学総会学術集会シンポジウム“癩と結核との関連性”において東大名譽教授緒方知三郎博士により発表された。また第1報は第32回日本癩学会総会(1959, 31)及び第2報は第7回日本癩学会東部地方会(1959. 9. 27.)において発表した。)

(稿をおえるに当り御指導賜りました国立らい研究所顧問緒方知三郎博士、同研究所病理学研究室の福士勝成先生に深い感謝の意をささげます。なお同研究所所長小林六造博士、同研究部長義江義雄博士、同教室技術員の川津邦雄、中村東海両君、国立療養所大島青松園園長野島泰治博士、同検査室植村許子主任、ベトレヘムの園院長藤井清之博士の御尽力に厚く御礼申し上げます。

(癩の病理解剖学的研究 第7報)

文 献

- 1) 結核予防会: 結核の統計(同会編集)(1958)
- 2) 尾村偉人: 第15回日本医学総会学術集会報告集 1959, (未刊)
- 3) 藤楓協会: 日本のらいについて(同会編集) 26~41 (1958)
- 4) 堂野前維摩郷他: 最新医学 7 72 (1952)
- 5) 勝見秀也: レブラ 24 137 (1955)
- 6) 犀川一夫: 医療 7 213 (1953)
- 7) 谷村忠保他: レブラ 20 203 (1951)
- 8) 安元健児: 同誌, 106 (1951)
- 9) Avelino, M. A. abst., VII Intern. Congr. lepr. (1959)
- 10) Bacaedda-Boy, A. and Farris, G. B.: Ibid.
- 11) Giuseppe, B. B.: Ibid.

- 12) Buv-Hoi, N. P. et al.: Ibid.
- 13) Hirano, N. et al.: Ibid.
- 14) Rolaier, R., et al.: Ibid.
- 15) Schimid, K., et al.: Ibid.
- 16) 平野憲正他: レブラ **25** 136 (1956)
- 17) 西村真二他: 同誌 **25** 190 (1956), **24** 283, 402 (1955), **23** 74, 123, 345 (1954), **22** 250 (1953), **21** 26 (1952)
- 18) 市原鶴男他: 同誌 **24** 33 (1955)
- 19) 高山保郎: 同誌 **23** 71 (1954)
- 20) 高山保郎他: 同誌 **22** 18 (1953)
- 21) 吉永敏夫他: 同誌 **23** 68 (1954)
- 22) 安元健児: 同誌 **21** 23 (1952)
- 23) 上川豊: 同誌 **11** 1 (1940)
- 24) 日下修一: 同誌 **8** 633 (1937)
- 25) 佐谷有吉他: 同誌 **5** 229 (1934)
- 26) 太田正雄他: 同誌 **5** 204 (1934)
- 27) 桜井方策: 同誌 **4** 571 (1933)
- 28) 西村真二他: 同誌 **25** 70 (1956)
- 29) 中村武雄: 同誌 **16** 7 (1947)
- 30) Fernandez, J. M. M.: Intern, J. Lepr, **23** 243 (1955)
- 31) 柳沢 謙: 胸部疾患 **3** 151 (1958)
- 32) ♪ : 第 7 回国際癩学会抄 (1958)
- 33) ♪ : レブラ **26** 70 (1957), **27** 242 (1958)
- 34) 阿部正英: 第 15 回日本医学総会学術集会報告集(未刊) (1959)
- 35) 緒方知三郎: 同誌 **5** 7 (1959)
- 36) 福士勝成, 湯川 智, 高野公雄, 飯高和子: 日病会誌(総会号) **48** (未刊)
- 37) 湯川 智, 福士勝成: 同誌 **47** 420 (1958)
- 38) 湯川 智: 同誌 **48** (1959) (未刊)
- 39) 飯高和子: 東京女医大誌 **29** 242, 343, 455 (1959)
- 40) 赤崎兼義: 第 15 回日本医学会総会学術集会報告集 **2** 61 (1959)

写真説明

- Fig. ① 剖検例 R-22, 62 才, ♂, T 型 (初期変化群のみにて治癒例) 矢印は石灰化巣を示す。
- ♪ ② 剖検例 R-2, 81 才, ♂, T 型 (中等症) 矢印は小指頭大の空洞
- ♪ ③ 剖検例 R-29, 32 才, L 型 (中等症) 矢印は小指頭大の空洞, 誘導気管支あり, 融解乾酪巣, 小石灰巣など混在し, 肋膜肥厚中等度, 矢印(□)は初感染巣
- ♪ ④ L 型, (中等症例,) 矢印(イ)は初感染巣? (ロ)はリンパ腺軟化, (ハ)は肋膜肥厚
- ♪ ⑤ L 型, 重症肺粟粒結核例, 矢印(イ)は粟粒結節多発, (ロ)は肋膜肥厚
- ♪ ⑥⑦ 重症荒蕪肺を示す。矢印は 1 側肺全野の巨大空洞を示す。
- ♪ ⑧ L 型, (重症例) 矢印(イ)は廻盲部癒痕性狭窄, (ロ)は癒痕肥厚を示す。

Fig. 1

Fig. 5

Fig. 2

Fig. 6

Fig. 3

Fig. 7

Fig. 4

Fig. 8

表1 症 例 一 覧 (国立療養所大島青松園全剖検例 490 例について)

註 治: 初感染巣のみにて治癒せるもの

剖 検 例	年 ・ 性	癩 経 過	癩 病 型	結 核 有 無	合 併 症 又 は 主 要 症 状	死 因	剖 検 例	年 ・ 性	癩 経 過	癩 病 型	結 核 有 無	合 併 症 又 は 主 要 症 状	死 因
大 正 13 年 ～ 昭 和 16 年 (計 377 例)													
1	34♂	29	T	+	重 粟粒結核	肺結核	42	26♂	9	T	+	重 肋、腹膜炎	肺結核
2	39♂	11	T	+	治 僧帽弁閉鎖全	流感	43	24♂	8	T	+	重 腸結核	肺結核
3	32♂	12	L ₃	-	動脈硬化	弁膜症	44	30♂	6	L ₃	-		喉頭狭窄
4	37♂	23	L	+	重 肋、腹膜炎	肺結核	45	35♂	7	L ₃	+	重 粟粒結核	肺結核
5	50♂	46	L	〃	重 粟粒結核	〃	46	20♂	14	L	+	重 粟粒結核	肺結核
6	36♂	20	T	-	(腹水)	慢性腎炎	47	25	7	L	+	重 脊椎カリエス	肺結核
7	36♂	18	L	+	中 (胸水) 肺結核	〃	48	48	7	L	+	軽	衰弱
8	52♂	16	L ₃	〃	軽	〃	49	26♀	16	L	-		腸カタル
9	63♀	18	T	-		腸 炎	50	31♂	14	L ₃	+	重 肋膜炎	肺結核
10	47♂	24	L	+	重 粟粒結核	肺結核	51	45♂	25	L ₃	+	軽 肋膜炎	肺炎
11	53♂	19	T	+	重 〃	〃	52	36♂	12	L ₃	+	重 腹膜炎	喉頭狭窄
12	36♂	12	L	〃	軽 肋膜炎	肺炎	53	42♂	20	T	+	中 肋膜炎	肺炎
13	28♂	14	L ₃	+	軽 肋膜炎	癩性喉頭狭窄	54	39♂	9	L	+	重 粟粒結核	肺炎
14	26♂	6	L	-		癩性喉頭狭窄	55	27♂	2	L ₃	+	重 粟粒結核	肺炎
15	56♂	30	L	-		敗血症	56	42♂	16	T	+	重 粟粒結核	肺炎
16	77♀	29	T	+	治	腸カタル	57	21♂	3	T	+	重 粟粒結核	肺炎
17	49♂	4	T	-	(腹水)	慢性腎炎	58	29♂	11	T	+	重 粟粒結核	肺炎
18	73♂	3	T	-		丹毒	59	58♂	15	L ₃	-		慢性腎炎
19	37♂	11	L	-		心臓麻痺	60	57♂	12	L	+	重 粟粒結核	肺結核
20	31♂	5	L	+	重 肋膜炎	肺結核	61	46♂	14	T	-		衰弱
21	51♂	12	T	+	重 粟粒結核	肺結核	62	23♂	9	T	+	中 肋膜炎	肺炎
22	57♂	46	T	-	(腹水)	慢性腎炎	63	29♂	5	L	+	軽 肋膜炎	衰弱
23	39♂	12	L	+	重 肋膜炎	肺結核	64	35♂	11	L	+	重 粟粒結核	肺結核
24	21♂	8	T	-		腸カタル	65	54♂	21	T	+	重 腹膜炎	肺結核
25	36♂	9	T	+	治	急性腎炎	66	34♂	10	L	+	軽 肺結核、肋膜炎	喉頭狭窄
26	45♂	14	L	+	軽 胃潰瘍	癩性喉頭狭窄	67	29♂	20	T	+	中 弁膜症	心臓麻痺
27	21♂	8	L ₂	-		癩性喉頭狭窄	68	52♂	22	T	+	治 肋膜炎	流感
28	56♀	4	L	-	(腹水)	慢性腎炎	69	21♂	14	L	+	重 肋膜炎、腎結核	流感
29	38♂	21	L	+	重 肋膜炎	肺結核	70	55♂	14	T	-		脳出血
30	31♀	15	T	-		敗血症	71	56♀	14	T	-		
31	36♂	19	T	+	中 肺結核	化膿性気管支炎	72	43♂	9	T	+	重 腸結核	肺結核
32	54♂	25	L	+	重 粟粒結核	化膿性気管支炎	73	43♂	14	L	+	重 肋膜炎	肺結核
33	46♀	29	T	+	重 粟粒結核	化膿性気管支炎	74	28♂	8	L	+	重 肋膜炎	肺結核
34	20♂	5	L	+	重 化膿性気管支炎	化膿性気管支炎	75	44♂	25	L	+	中 肺結核、肋膜炎	脳出血
35	33♀	8	L	+	重 粟粒結核	化膿性気管支炎	76	48♀	18	L ₃	+	軽 子宮筋腫、卵管膿瘍	慢性腎炎
36	41♀	10	T	-	フレグモーン	腸カタル	77	32♂	11	T	+	中 肺結核、大動脈弁口狭窄	肺炎
37	22♂	5	L	+	重 腸結核	肺結核	78	32♂	4	T	+	重 肺結核	脳膜炎
38	36♂	11	L	+	重 粟粒結核	肺結核	79	49♂	5	T	+	治 肝硬変	腸カタル
39	25♀	11	L	+	重 粟粒結核	肺結核	80	50♂	3	L ₃	-	重 フレグモーン	肺炎
40	35♀	10	L	+	中 肋膜炎	喉頭狭窄	81	51♂	9	T	+	重 腸結核	肺結核
41	57♂	8	L ₃	+		腸カタル	82	32♀	15	L	+	重 粟粒結核	肺結核

剖 検 例	年 ・ 性	癩 経 過	癩 病 型	結 核 有 無	核 病 勢	合 併 症 又 は 主 要 症 状	死 因	剖 検 例	年 ・ 性	癩 経 過	癩 病 型	結 核 有 無	核 病 勢	合 併 症 又 は 主 要 症 状	死 因
83	34 ♂	21	L ₃	+	重	粟粒結核	脳膜炎	128	23 ♀	9	L ₃	+	重	腸結核	肺結核
84	25 ♀	7	L ₃	+	重	粟粒結核	肺結核	129	39 ♂	13	L ₃	+	重	腸結核	肺結核
85	65 ♂	19	L ₃	+	中	肺結核, 腎炎	敗血症	130	22 ♂	3	T	+	重	腸結核	肺結核
86	41 ♀	17	T	—		腸カタル	顔面癌	131	41 ♂	25	L ₃	—		弁膜症, 腎炎	肺炎
87	55 ♂	8	T	—		心肥大	慢性腎炎	132	71 ♂	52	L ₃	+	重	肺壞疽, 動脈硬化	萎縮腎
88	37 ♂	11	T	—			敗血症	133	26 ♂	8	T	+	治	腎炎	尿毒症
89	53 ♂	24	T	—		大動脈硬化, 萎縮腎	脳出血	134	60 ♀	24	L ₃	+	軽	萎縮腎, 胆石	慢性腎炎
90	41 ♂	20	L	+	重	肋, 腹膜炎	腎結核	135	32 ♂	18	L ₃	+	軽	肝硬変	慢性腎炎
91	67 ♂	12	T	+	重	腎炎, 腸結核	肺炎	136	24 ♀	7	L ₃	+	重	心外膜炎	肺結核
92	22 ♀	10	L ₃	+	軽	腎炎, 肋膜炎	肺炎	137	52 ♀	6	T	+	重	大動脈硬化, 腸結核	肺結核
93	4 ♂	23	T	+	重	肺結核	脳膜炎	138	52 ♂	19	L ₃	+	重	大動脈硬化, 胃潰瘍, 腸結核	肺結核
94	40 ♂	19	T	+	重	胆石, 腎炎, 腸結核	肺結核	139	33 ♂	20	L ₃	+	重	腸結核	敗血症
95	29 ♂	12	T	+	重	肋骨カリエス, 肋, 腹膜炎	肺結核	140	52 ♀	12	L ₃	+	重	粟粒結核	肺結核
96	28 ♂	13	L ₃	+	重	腸結核	肺結核	141	59 ♂	5	L ₃	+	重	肺結核, 心嚢炎, 腹膜炎	腸カタル
97	28 ♂	6	L ₃	+	重	粟粒結核	肺結核	142	32 ♂	10	T	+	軽	肺結核, 腸カタル	肺炎
98	55 ♂	10	L	+	重	粟粒結核	肺結核	143	25 ♂	9	L ₃	+	軽	肺結核, 腎炎	肺炎
99	25 ♂	6	L	+	重	粟粒結核	急性腎炎	144	52 ♂	10	L ₃	+	軽	心外膜炎	慢性腎炎
100	33 ♂	13	L	—		虫垂炎	急性腹膜炎	145	32 ♀	12	L ₃	+	軽	直腸潰瘍, 腎炎	喉頭狭窄
101	30 ♂	10	L ₃	+	重	肋膜炎	肺結核	146	58 ♂	17	L ₃	+	軽	弁膜症, 右肺結核	尿毒症
102	47 ♂	32	L	—		肺鬱血, 肝萎縮	腸カタル	147	♀	7	L ₃	—		弁膜症	尿毒症
103	35 ♀	10	T	—		腎炎	流感	148	44 ♂	11	L	—			尿毒症
104	24 ♂	6	T	+	重	腸結核	肺結核	149	38 ♀	9	L	+	重	肝硬変, 腸結核, 脊椎カリエス	慢性腎炎
105	39 ♂	25	T	+	重	肺結核, 腹膜炎	肺結核	150	46 ♂	30	L ₃	+	軽	腎炎	尿毒症
106	29 ♀	11	L ₃	—		(腹水)	慢性腎炎	151	69 ♂	13	L	+	重	胆嚢炎, 肺結核	慢性腎炎
107	50 ♂	19	L ₃	+	重	肺結核	慢性腎炎	152	38 ♂	22	L ₃	+	重	腸結核, 大動脈硬化	肺結核
108	19 ♀	2	T	+	重	腸結核, 腹膜炎	肺結核	153	26 ♂	5	T	+	重	腸結核	肺結核
109	44 ♂	30	L ₃	+	重	腸結核, 腹膜炎	肺結核	154	37 ♀	7	T	+	治	慢性腎炎, 腔癰	腸カタル
110	43 ♂	12	T	+	重	肺壞疽	敗血症	155	28 ♂	5	L ₃	+	重	腸結核, 喉頭結核	肺結核
111	28 ♂	11	L ₃	—		心外膜炎	敗血症	156	41 ♀	22	T	+	中	腸結核, 子宮内膜炎	腹膜炎
112	44 ♂	23	L ₃	+	重	粟粒結核	敗血症	157	28 ♂	10	L ₃	+	重	肋膜炎	肺結核
113	19 ♂	9	T	+	重	腸結核, 腹膜炎	肺結核	158	50 ♂	8	L ₃	+	重	腸, 腹膜結核, 嚢炎	肺結核
114	32 ♂	3	L ₃	+	重	腸結核, 腹膜炎	肺結核	159	26 ♂	5	L ₃	+	中	右肺炎, 肝硬変	尿毒症
115	50 ♂	4	L ₃	+	軽	肝硬変, 心肥大	脊椎癆	160	26 ♀	10	L ₃	+	重	粟粒結核	肺結核
116	21 ♂	8	L ₃	+	重	腸結核	肺結核	161	54 ♂	4	L	+	重	粟粒結核	尿毒症
117	30 ♂	13	L ₃	+	重	弁膜症	敗血症	192	33 ♀	21	L ₃	+	重	喉頭結核, 腎炎	肺結核
118	30 ♂	13	L ₃	+	軽	肺炎	急性腎炎	163	45 ♂	17	L ₃	+	重	粟粒結核	尿毒症
119	59 ♂	15	T	—		肺炎, 肝癌	胃癌	164	36 ♀	25	L ₃	+	重	粟粒結核	敗血症
120	19 ♂	3	L ₃	+	重	腸結核, 腹膜炎	肺結核	165	29 ♂	10	L	+	重	粟粒結核	肺結核
121	57 ♂	21	L ₃	+	重	粟粒結核	肺結核	166	34 ♂	2	L ₃	+	重	粟粒結核	肺炎
121	33 ♂	8	L ₃	—		冠状動脈硬化	急性腎炎	167	40 ♂	24	L ₃	+	重	右室肥大, 肺壞疽	肺結核
123	67 ♂	(非癩例)				動脈硬化, 萎縮腎	脳出血	168	47 ♂	30	L ₃	+	重	粟粒結核	慢性腎炎
124	42 ♂	15	T	—		心肥大, 肝硬変	慢性腎炎	169	26 ♂	6	L	+	軽	動脈硬化	溢死
125	15 ♂	4	L ₃	+	重	粟粒結核	肺結核	170	88 ♂	28	L ₃	+	軽	冠状動脈硬化	肺炎
126	54 ♂	33	T ₃	+	重	腸結核, 肝硬変, 萎縮腎	肺結核	171	96 ♂	26	L ₃	+	重	粟粒結核	敗血症
127	43 ♂	12	L ₃	—		脳出血	慢性腎炎	172	42 ♂	14	L ₃	+	重	腎炎, 心肥大	肺炎

剖 検 例	年 ・ 性	癩 経 過	癩 病 型	結 核 有 無	核 病 勢	合 併 症 又 は 主 要 症 状	死 因	剖 検 例	年 ・ 性	癩 経 過	癩 病 型	結 核 有 無	核 病 勢	合 併 症 又 は 主 要 症 状	死 因
173	31♂	3	T	+	重	粟粒結核	自殺	218	36♂	7	L ₃	+	軽	胃潰瘍	尿毒症
174	28♂	8	L ₃	+	重	肺結核, 腎炎	腸結核	219	35♂	14	T	+	重	粟粒結核	脳膜炎
175	33♂	9	L ₃	—		イレウス, 腎炎	腹膜炎	220	48♂	31	L ₃	+	重	肺結核, 慢性腎炎	縊死
176	44♀	14	T	—		弁膜症, 慢性腎炎	敗血症	221	39♀	24	L ₃	+	重	慢性腎炎	肺結核
177	21♂	11	L ₃	+	重	腸結核, 腎炎	肺結核	222	40♂	11	L ₃	+	重	粟粒結核	慢性腎炎
178	42♂	20	T	+	重	腸結核, 左腎結炎	肺結核	223	24♂	6	L ₃	+	中	慢性腎炎	肺炎
179	47♂	24	L	+	重	腸, 腹膜結核	肺結核	224	20♂	10	L ₃	+	重	肺結核, 粟粒結核, 慢性腎炎	肺炎
180	47♂	6	L	+	重	粟粒結核, 運動脈硬化	敗血症	225	33♂	18	L ₃	+	重	腸結核	肺結核
181	49♂	42	T	+	治	腎炎, 腹水	弁膜症	226	45♀	18	T	+	重	粟粒結核, 慢性腎炎	肺結核
182	5♂	4	L ₃	+	重	粟粒結核	脳膜炎	227	31♂	26	L ₃	+	重	粟粒結核	肺結核
183	48♂	12	T	—		動脈硬化	脳出血	228	33♂	16	L ₃	+	中	肺動脈, 大動脈硬化	尿毒症
184	37♀	30	L ₃	—		慢性気管支炎	喉頭狭窄	229	48♂	41	L ₃	+	重	イレウス, 慢性腎炎, 腸結核	肺結核
185	31♀	9	L ₃	+	重	腹膜炎	喉頭狭窄	230	48		(非順例)				
186	62♀	10	T	+	治	腎嚢腫	萎縮腎	231	51♂	35	L ₃	+	重	腸結核, 慢性腎炎	肺結核
187	39♂	8	L ₃	+	重	肺結核, 僧帽弁口狭窄	慢性腎炎	232	19♂	3	L ₃	+	重	慢性腎炎	肺結核
188	47♂	17	L ₃	+	軽	腹水, 腎炎	肺炎	233	36♂	12	L ₃	+	重	粟粒結核, 慢性腎炎	肺結核
189	76♂	11	T	+	治	冠動脈硬化	心臓麻痺	234			(非順例)				
190	35♂	4	L ₃	+	重	腎炎心外膜炎	肺結核	235	37♂	10	L ₃	+	重	慢性腎炎	肺結核
191	33♂	16	T	—		(腹水)	弁膜症	236	48♂	26	L ₃	+	中	肺結核, 弁膜症	慢性腎炎
192	36♂	12	L ₃	+	軽	腎炎	尿毒症	237	60♂	16	L ₃	—		(腹水)	尿毒症
193	34♀	20	L ₃	—		腎出血, 子宮膜炎	尿毒症	238	28♂	19	L ₃	+	重	慢性腎炎	肺結核
194	18♀	6	L ₃	+	重	前立腺発育不全	肺結核	239	69♂	21	T	—		冠動脈硬化, 胃潰瘍	脳出血
195	34♂	16	L ₃	+	重	心嚢炎, 肋膜炎	肺結核	240	34♂	16	L ₃	+	重	慢性腎炎	肺結核
196	42♂	12	L ₃	+	重	心外膜炎, 肝硬変	肺結核	241	40♀	29	T	+	重	粟粒結核	肺結核
197	32♂	11	L ₃	+	重	粟粒結核	肺結核	242	28♂	7	L ₃	—			縊死
198	38♀	24	T	+	重	粟粒結核	肺結核	243	32♂	43	T	+	軽	動脈硬化, 慢性腎炎	肺炎
199	52♂	17	T	+	治	肝硬変, 兎眼	慢性腎炎	244	43♂	7	L ₃	+	中	蛔虫症, 肺結核	慢性腎炎
200	31♀	9	L ₃	+	軽	肺炎, 腎炎, 腹水	肺炎	245	40♀	11	L ₃	+	重	膀胱結核, 肺炎腫	肺結核
201	32♂	17	L ₃	+	重	腎炎, 肋膜炎	肺結核	246	32♂	16	L ₃	+	重	胸水	肺結核
202	41♂	11	L ₃	+	重	慢性腎炎	肺結核	247	37♂	6	L ₃	—		直腸潰瘍	慢性腎炎
203	32♂	15	L ₃	+	中		尿毒症	248	31♂	16	L ₃	+	重	粟粒結核	脳膜炎
204	53♀	11	T	—		冠動脈硬化, 大動脈硬化	尿毒症	249	♂		L ₃	+	重	粟粒結核	尿毒症
205	23♂	7	T	+	重	粟粒結核	肺結核	250	31♂	18	L ₃	+	重	粟粒結核	肺結核
206	43♀	21	L	+	重	慢性腎炎	喉頭狭窄	251	60♂	20	T	—		肺嚢血	慢性腎炎
207	44♂	21	L ₃	+	重	粟粒結核	慢性腎炎	252	28♂	21	L ₃	+	重	慢性腎炎	肺結核
208	53♀	39	T	+	重	腸潰瘍, 子宮内膜炎	肺結核	253	33♂	7	L ₃	+	重	腸結核	肺結核
209	35♂	9	T	+	重	粟粒結核	喉頭狭窄	254	28	10	L ₃	+	重	腸結核, 慢性腎炎	肺結核
210	24♂	5	T	+	治	肝硬変	脳炎	255	21♂	10	T	+	重	腸結核	肺結核
211	25♂	8	L ₃	+	重	慢性腎炎, 腸結核	肺結核	256	27♂	9	T	+	重	粟粒結核	肺結核
212	41♂	16	L ₃	+	重	腸結核, 粟粒結核	肺結核	257	36♂	7	L ₃	+	重	粟粒結核	尿毒症
213	44♂	25	L ₃	+	重	粟粒結核	肺結核	258	28♂	10	L ₃	+	重	腸, 腹結核, 慢性腎炎	肺結核
214	44♂	25	L ₃	+	重	粟粒結核	肺結核	259	♂		L ₃	+	重	肺結核	咽頭狭窄
215	73♀	39	T	—		動脈硬化, 肝硬変	脳出血	260	56♂	4	T	—		(腹水)	腹膜炎
216	27♂	8	L ₃	—		腎炎, 肝萎縮	腸カタル	261	26♂	9	L ₃	+	重	慢性腎炎	肺結核
217	30♂	28	L ₃	—			急性腎炎	262	♂		L ₃	+	軽	肋膜炎	尿毒症

剖検例	年・性	癩経過	癩病型	結核有無	核病勢	合併症又は主要症状	死因	剖検例	年・性	癩経過	癩病型	結核有無	核病勢	合併症又は主要症状	死因
263	49♂	8	L	+	軽	陰囊水腫	尿毒症	308	♀		L ₃	+	重	腎炎	肺結核
264	34♂	15	T	+	重	腹膜炎	肺結核	309	♂		L ₃	+	重	膿胸, 腸結核	肺結核
265	40♂	15	L	+	軽	腹水, 肋膜炎	敗血症	310	♂		L ₃	—		腹水, 大動脈硬化	慢性腎炎
266	55♂	21	L ₃	+	軽	心肥大, 肋膜炎	肺炎	311	♀		T	—		弁膜症, 動脈硬化	尿毒症
267	36♂	20	L ₃	+	重	心嚢炎	肺結核	312	♀		L ₃	+	重	肺水腫, 腸結核, 子宮筋腫	慢性腎炎
268	35♂	15	L	+	軽	肋膜炎	心内膜炎	313	♂		T	+	中	心外膜炎	慢性腎炎
269	33♂		L	+	重	粟粒結核	肺結核	314	53♀		L ₃	+	重	慢性腎炎	肺結核
270	19♂		L ₃	+	重	腸結核	肺結核	315	♂		L ₃	+	重	慢性腎炎	肺結核
271	31♂		T	+	重	粟粒結核	胃潰瘍	316	♂		L ₃	+	重	粟粒結核	肺結核
272	42♂		L ₃	—		動脈硬化	脳出血	317	♂		T	+	中	肋膜炎	右室不全
273	♂		L ₃	+	軽	胃出血	尿毒症	318	59♂					動脈硬化, 慢性腎炎	肺結核
274	♂		L	+	重	粟粒結核	肺結核	314	♂		L ₃	—		心内膜炎, 大動脈閉鎖不全	慢性腎炎
275			L	—		慢性腎炎	慢性腎炎	320	♀		L ₃	—		動脈硬化, 左室不全	慢性腎炎
276	61♂		L	+	重	粟粒結核	肺結核	321	♂		L ₃	+	重	慢性腎炎, 胃潰瘍, 腹水	肺結核
277	♂		T	+	治	前立腺肥大	慢性腎炎	322	♂			+	中	大動脈閉鎖不全	慢性腎炎
278				+	重	肺結核	脳膜炎	323	♂			+	中	腸結核	慢性腎炎
279	34♂		L ₃	+	重	粟粒結核	肺結核	324	♂		L ₃	+	重	腹水, 大動脈硬化, 慢性腎炎	肺結核
280	33♂		L ₃	+	重	右室拡大, 肺結核	喉頭狭窄	325	♀			—		慢性腎炎, 肝硬変, 動脈硬化	肺炎
281	♂		L ₃	+	軽	右肺結核	喉頭狭窄	326	♂		L ₃	+	中	肋膜炎, 腹水, 肺結核	慢性腎炎
282	31♂		L ₃	+	重	腸結核	肺結核	327	38♂		T	+	重	腸結核	肺結核
283	♂		L ₃	+	重	腸結核, 慢性腎炎	肺結核	328	38♂		L ₃	+	重	慢性腎炎	肺結核
284	32♂		L	+	重	肺結核	縊死	329	♀		L	+	重	腸, 腹膜結核	肺結核
285	62♂		L	—		大動脈硬化, 前立腺硬化	肺結核	330	35♂		L ₃	+	重	腸, 腹膜結核, 慢性腎炎	肺結核
286	40♂		L ₃	+	中	肋膜炎	縊死	331	33♂		L ₃	+	重	粟粒結核, 慢性腎炎	肺結核
287	33♂		L ₃	+	重	腸結核	肺結核	332	42♂		T	+	重	肺結核, 腸潰瘍	慢性腎炎
288	35♀		L	+	軽	腎結核, 腹水, 慢性腎炎	肺結核	333	77♀		T	+	治	慢性腎炎, 動脈硬化	脳出血
289	39♀		L ₃	+	重	慢性腎炎	肺結核	334	33♀		L ₃	+	重	腸結核, 慢性腎炎	肺結核
290	36♂		L ₃	+	重	腸結核, 慢性腎炎	肺結核	335	50♂		T	+	重	腸結核	肺結核
291	33♂		L	+	重	膿胸, 腸結核	肺結核	336	34♂		L ₃	+	重	腸結核	肺結核
292	26♂	12	T	+	重	膿胸, 骨盤カリエス	肺結核	337	23♂		L ₃	+	重	腸結核, 慢性腎炎	尿毒症
293	48♂		L ₃	+	重	萎縮腎	肺結核	338	61♂		L ₃	+	重	慢性腎炎	肺結核
294	30♂		L ₃	+	重	腸結核, 慢性腎炎	肺結核	339	65♂		L	+	重	肋膜炎	肺結核
295	58♂		L ₃	—		萎縮腎	心臓麻痺	340	23♂		T	+	重	肺結核	胸膜炎
296	51♀		T	+	重	腎炎, 腸結核	肺結核	341	46♂		L ₃	+	重	胆石症	肺結核
297	30♂		L ₃	+	重	粟粒結核	肺結核	342	67♀		T	—			肺炎
298	34♂		L ₃	+	重	慢性腎炎, 胃出血	肺結核	343	73♂		T	+	中	大動脈硬化, 肺結核	脳出血
299	30♂		T	—		慢性腎炎, 胃粘膜出血	腹膜炎	344	46♂		L ₃	—		虫垂炎	腹膜炎
300	55♂		L ₁	—		肝硬変, 腹水	脳膜炎	345	28♂		L ₃	+	重	肺結核	腹膜炎
301	40♂		L ₁	—		心肥大, 動脈硬化	慢性腎炎	346	16♀		L ₃	+	重	腸結核, 粟粒結核	肺結核
302	65♀					慢性腎炎, 子宮内膜炎	尿毒症	347	♂		L	+	重	腸結核, 慢性腎炎	肺結核
303	23♂		L ₁	+	重	粟粒結核	肺結核	348	♂		L	—			急性腎炎
304	30♂		L ₁	+	重	慢性腎炎	肺結核	349	38♂		L ₃	+	重	腸結核, 慢性腎炎	肺結核
305	30♂		L ₁	+	重	腸結核	肺結核	350	60♂		L ₃	+	重	腎萎縮	肺結核
306	21♀		L ₁	+	重	腸結核, 腹膜炎	肺結核	351	♂		L ₃	+	重	腎結核, 肺結核	尿毒症
307	54♂		L ₃	+	重	大動脈肥厚, 萎縮腎, 肺結核	喉頭狭窄	352	32♂		L ₃	+	重	腸結核, 心嚢炎	肺結核

剖 検 例	年 ・ 性	癩 病 型	癩 經 過	結 核 有 無	核 病 勢	合 併 症 又 は 主 要 症 状	死 因	剖 検 例	年 ・ 性	癩 病 型	癩 經 過	結 核 有 無	核 病 勢	合 併 症 又 は 主 要 症 状	死 因
353	43 ♀		T	+	中	肺結核	慢性腎炎	366	♂		L ₃	+	重	粟粒結核	肺結核
354	♂		T	+	重	肋膜炎	肺結核	367	♀		L				
355	26 ♂		T	+	重	粟粒結核	肺結核	368			L				腹膜炎
356			L					369			L				
357	♂		L					370							肺結核
358	49 ♂		T	—		大動脈硬化, 肺水腫	脳出血	371	40 ♀		L ₃	+	軽	肋膜炎	肝炎
359								372	♂		T	+	治	(腹水)	慢性腎炎
360	52 ♂		L ₃	+	重	粟粒結核	尿毒症	373	♀		L ₃	+	重	粟粒結核, 卵管囊腫	肺結核
361	63 ♂		L ₃	+	重	肺結核	尿毒症	374	♂						
362	54 ♂		T	+	治	肋膜炎	慢性腎炎	375	♀						
363	♂		T	+	重	慢性腎炎, 腹膜結核	尿毒症	376	♀						
364	♂		L ₃	+	中	心外膜炎	尿毒症	377	♂		T				弁膜症
365	♀		T	—		動脈硬化	慢性腎炎								

昭和 17 年 ~ 25 年

(計 68 例)

378	48 ♂		L ₃	—		左室肥大	胃潰瘍	408	♀		L	+	重	慢性腎炎, 腸結核	肺結核
379	♂						肺結核	409	♂		T	+	中	弁膜症	萎縮腎
380	♂						慢性腎炎	410	50 ♂		L ₃	—		腎炎黄疸	急性黄色肝萎縮
381	♂							411	64 ♀		L ₃	+	重	慢性腎炎, 肺えそ	肺結核
382	31 ♂					腸結核	肺結核	412	59 ♂	39	L ₃	+	重	腹膜結核, 腹水	脳膜炎
383			T	+	重	腎鬱血	肺結核	413	55 ♂		T	+	治	心嚢炎, 鬱血肝	肺炎
384	♂		T	+	中	腹水, 肺結核	腹膜炎	414	34 ♀		L	—		萎縮腎	胃癌
385	35 ♂						肺結核	415	♂		L	+	軽	心嚢炎	肺炎
386	37 ♂						肺結核	416	67 ♂		T	+	治	(腹水)	食道癌
387	37 ♀					腸結核	肺結核	417	66 ♂		T	—		(腹水)	胃癌
388	♂		L	+	重		肺結核	418	53 ♀		L ₃	+	重	肋膜炎	肺結核
389	♂						大腸炎	419	59 ♀		L	—			慢性腎炎
390	♀						肺結核	420	53 ♂		L ₃	+		胃潰瘍	胃潰瘍
391	♂		L					421	39 ♂		T	+	重	心嚢炎, 粟粒結核	慢性腎炎
392	♂		L	+	重	心肥大, 右腎結核	慢性腎炎	422	54 ♀		T	—		腎嚢炎	敗血症
393	♂						狭心症	423	58 ♂		T	+	軽	肺えそ	敗血症
393	♂		L	+	重	腸結核, 粟粒結核	肺結核	424	44 ♂		L ₃	+	軽	慢性腎炎	敗血症
395	♂				重	萎縮腎, 粟粒結核	肺結核	425	60 ♀	47	T	+	軽		胃癌
396	♀						慢性腎炎	426	29 ♂		T	—			中毒
397	♂						肺結核	427	45 ♂		L	—			衰弱
398	37 ♂		L	+	重		肺結核	428	48 ♂						
399							肺結核	429	24 ♂		T	+	治		
400								430	26 ♀		L	+	重		肺結核
401	♂			+	重		肺結核	431	54 ♀		T	+	重	粟粒結核	脳膜炎
402	43 ♂		L ₃	+	重	丹毒, 粟粒結核	急性腎炎	432	34 ♀		T	—			慢性腎炎
403	48		L	+	重	胆結核	肺結核	433	62 ♀		L				癌
404	25 ♂		L ₃	+	重	粟粒結核	慢性腎炎	434	36 ♂		L ₃	+	重	粟粒結核	肺結核
405	25 ♀	13	T	—		腹水, 心肥大腎, 囊腫	腹膜炎	435	47 ♂		L	—			慢性腎炎
406	♂		L					436	41 ♀		L	—			子宮癌
407	29 ♂		L ₃	+	重	弁膜症, 腹水, 腎炎	喉頭結核	437	52 ♂						

剖 検 例	年 ・ 性	癩 病 型	癩 經 過	結 核 有 無	病 勢	合 併 症 又 は 主 要 症 状	死 因	剖 検 例	年 ・ 性	癩 病 型	癩 經 過	結 核 有 無	病 勢	合 併 症 又 は 主 要 症 状	死 因
438	43 歳		L	+	重		肺結核	446	54 歳		L ₁	-		(腹水)	脳出血
439	63 歳		T	+	軽	肺癌?	肺炎	447	32 歳		L	+	軽	無気肺, 腹水	慢性腎炎
440	42 歳		L	-		心肥大, 心嚢炎	肺炎	448	44 歳		L	+	軽	腎臓瘍, 睪丸炎	慢性腎炎
441	51 歳		T	-			子宮癌	449	20 歳	10	L ₂	+	重	心筋炎, 喉頭結核	慢性腎炎
442	38 歳		L	-			慢性腎炎	450	23 歳	12	T	+	重	粟粒結核, 脊椎カリエス	脳膜炎
443	60 歳		L				食道癌	451	40 歳					腹膜結核, 糞瘻	第結核
444			L ₁					452	23 歳		L ₃	+	重	粟粒結核	肺結核
445	20 歳		L ₁	+	重	粟粒結核	脳膜炎								

昭和 26 年 ~ 34 年

(計 38 例)

453	49 歳		T	+	治	(腹水)	胃癌	472	51 歳	17	L	+	重	肺炎, 幽門狭窄	肺結核
454	76 歳		T	-			腹膜炎	473	38 歳		L	+	軽	高血圧, 貧血	慢性腎炎
455	43 歳		L	+	軽	ネフローゼ	肺炎	474						胃潰瘍, 心内膜炎	
456	49 歳		T	-		肺えそ	慢性腎炎	475	44 歳		L ₃	+	重		肺結核
457	28 歳		L ₃	+	軽	肺結核, 大動脈硬化	心筋炎	476	55 歳	7	L	-		脂肪心	敗血症
458	40 歳		L ₃	+	軽	心筋変性	衰弱	477	42 歳	6	T	-	中	心肥大, 肺えそ, 肺気腫	食中毒
459	65 歳		T	-		卵管嚢腫	腹膜炎	478	42 歳		T	+	中	胃潰瘍	慢性腎炎
460	66 歳		T	+	軽	黄疸	肝炎	479	60 歳		T	-		高血圧	慢性腎炎
461	72 歳		T	-			脾臓壊死	480	68 歳	45	L	+	重	大動脈硬化	肺結核
462	26 歳		L ₃	+	重	喉頭結核	肺結核	481	46 歳						胃癌
463	39 歳		T	-		虫垂炎, 腹膜炎	肺炎	482	73 歳					肝硬変	
464	40 歳	13	L ₃	+	重	肝硬変, 胃潰瘍	肺結核	483	58 歳	11	L ₂	-		胆石, 大動脈硬化	慢性腎炎
465	63 歳	31	T	+	重		肺結核	484	47 歳	12	T	+	軽	肺えそ, 肺結核	心臓麻痺
466	37 歳	10	L	+	中	慢性腎炎	肺えそ	495	47 歳		L ₂	+	重		肺結核
467	62 歳	16	T	+	重	腹膜結核, 萎縮腎	心臓麻痺	486	58 歳		L	+	重		肺結核
468	歳		L	+	重	腸結核	肺結核	487	42 歳		L	-			脳出血
469	38 歳		L ₃	+	重	腸結核, 肝炎, 心不全 蛔虫症	肺結核	488	74 歳	7	L ₃	+	重	肝硬変	肺結核
470	20 歳	23	T	+	治	肝硬変	慢性腎炎	486	47 歳	34	T	+	治	動脈硬化, 高血圧	脳出血
471	41 歳	21	L ₃	+	軽		心臓麻痺	490	57 歳	37	L	-		肝硬変, 腹膜炎	急性腎炎

表 2 第二観察群（国立療養所大島青松園）全剖検例450例について

病 型			総 覧			化 学 療 法 以 前 (大風子油時代)						化 学 療 法 以 後		
						大正13～昭和16(18年間) (戦 前)			昭和17～25 (9 年間) (戦 中)			昭和26～34(9 年間) (戦 後)		
			総 計	L 型%	T 型%	計	L 型%	T 型%	計	L 型%	T 型%	計	L 型%	T 型%
結 核 有 無, 病 勢			450 例	69.4 (313)	30.6 (137)	359 例	70.6 (254)	29.4 (105)	56 例	69.6 (39)	30.4 (17)	35 例	57.1 (20)	42.9 (15)
無 結 核 例			22.8 (103)	19.5 (61)	30.4 (42)	19.7 (71)	25.7 (40)	29.2 (31)	37.5 (21)	30.4 (17)	23.3 (4)	31.4 (1)	20.0 (4)	46.7 (7)
結 核 合 併 例			77.2 (347)	80.5 (252)	69.6 (95)	30.3 (288)	84.3 (214)	70.8 (74)	62.5 (35)	56.4 (22)	76.6 (13)	68.6 (24)	80.0 (16)	53.3 (8)
完治せる初期変化群 (初 治)			6.6 (23)	0 (0)	24.0 (23)	0.6 (16)	0 (0)	21.3 (16)	13.3 (4)	0 (0)	30.8 (4)	13.0 (3)	0 (0)	37.5 (3)
二 次 結 核 症			93.1 (321)	100 (225)	76.0 (72)	94.4 (272)	100 (214)	78.7 (58)	86.7 (31)	100 (22)	59.3 (9)	87.0 (21)	100 (16)	62.5 (5)
軽 等			14.4 (50)	17.5 (44)	6.3 (6)	12.8 (37)	16.3 (35)	2.7 (2)	17.3 (6)	18.2 (4)	15.5 (2)	29.1 (7)	13.3 (5)	25.0 (2)
中 等 症			8.9 (31)	6.7 (17)	14.7 (14)	8.3 (24)	7.0 (15)	12.1 (9)	8.6 (3)	0 (0)	23.1 (3)	16.7 (4)	11.3 (2)	25.0 (2)
重 症			70.0 (243)	75.8 (191)	54.7 (52)	73.2 (211)	76.6 (164)	63.8 (47)	62.9 (22)	81.8 (18)	30.8 (4)	41.7 (10)	56.3 (9)	12.5 (1)
重 症 内 訳	肺	癆	40.6 (141)	49.2 (124)	28.4 (27)	48.2 (136)	42.1 (104)	43.2 (52)	34.5 (12)	45.5 (10)	7.7 (1)	25.0 (6)	31.3 (5)	0 (0)
		腸結核兼結核性腹膜炎	8.6 (29)	9.9 (25)	4.2 (4)	8.3 (24)	9.8 (21)	4.1 (3)	8.6 (3)	9.1 (2)	7.7 (1)	8.3 (2)	12.5 (2)	0 (0)
	腎	結 核	1.5 (5)	2.0 (5)	0 (0)	1.7 (5)	2.3 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
		喉 頭 結 核	7.2 (25)	7.5 (19)	6.3 (6)	6.9 (20)	7.0 (15)	6.8 (5)	11.5 (4)	13.5 (3)	7.7 (1)	0.4 (1)	6.3 (1)	0 (0)
	骨	結 核	2.4 (8)	1.6 (4)	4.2 (4)	1.7 (5)	1.0 (2)	4.1 (3)	5.8 (2)	4.5 (1)	7.7 (1)	0.4 (1)	0 (0)	0 (0)
		結 核 腦 膜 炎	1.6 (6)	2.0 (5)	1.1 (1)	2.1 (6)	2.5 (5)	1.4 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	全 身 粟 粒 結 核		6.7 (24)	3.6 (9)	5.3 (5)	4.2 (12)	4.2 (9)	4.1 (3)	2.9 (1)	9.1 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

(括弧内は実数を示す)

表3 臓器別に見た癩屍結核病勢一覽

全身結核分布				肺 結 核					肋 膜 炎					結核性リンパ腺炎 (主に肺門, 傍気管腺について)				
治療年代	癩病型	結核病型	核結病勢	一	+	軽度	中等度	強度	一	+	軽	中	強	一	+	軽	中	強
化学療法以前 (大風子油時代)	大正13~昭和16年(18年間)戦前	L 型 (結核合併) (214 例)	輕中等症	16 0 2	19 15 162	19 1 16	0 14 82	0 0 64	0 0 0	35 15 164	8 0 34	27 3 107	0 12 23	0 0 0	35 15 164	17 0 68	16 10 36	2 5 60
			計 %	18 7.5	196 92.5	36 18.3	96 49.0	64 33.7	0	214	42 19.6	137 64.5	35 15.9	0	214	68 39.7	62 29.0	67 31.3
		T 型 (結核合併) (74 例)	完輕中等症	9 0 0 0	7 2 9 47	7 2 0 2	0 0 9 32	0 0 9 13	11 0 0 0	5 2 9 47	5 2 0 2	0 0 2 32	0 0 7 13	0 0 0 0	16 2 9 47	7 0 0 0	9 2 7 26	0 0 2 21
			計 %	9 12.2	65 87.8	11 16.9	41 63.1	13 20	11 14.9	63 85.1	9 14.3	34 54.0	20 31.7	0	74	7 9.4	44 59.5	23 31.2
		總 計 %		27 9.4	261 90.6	47 18.3	137 52.4	77 29.3	11 3.8	277 96.2	51 18.4	171 61.7	55 19.9	0	288	92 31.9	106 36.8	90 31.2
	昭和17~25年(9年間)戦中	L 型 (結核合併) (22 例)	輕中等症	1 0 0	3 18 0	3 3 0	0 8 7	0 0 0	0 0 0	4 18 0	1 6 7	3 7 5	0 5 0	4 12 0	0 6 0	0 0 0	0 4 2	0 2 0
			計 %	1 4.5	21 95.5	6 28.6	8 23.8	7 33.3	0	22	7 31.8	10 45.5	5 22.7	16 72.7	6 27.3	0 0	4 66.7	2 33.3
		T 型 (結核合併) (13 例)	完輕中等症	0 0 0 0	4 2 4 3	4 2 0 0	0 0 4 1	0 0 0 2	0 0 0 0	4 2 4 3	4 2 0 0	0 0 4 3	0 0 0 0	0 0 0 0	4 2 4 3	4 0 0 1	0 0 4 1	0 0 0 2
			計 %	0 0	13 66.2	6 46.2	5 38.5	2 15.3	0 0	13 66.2	6 46.2	7 53.8	0	0	13 46.2	6 38.5	5 38.5	2 15.3
		總 計 %		1 2.7	34 97.3	12 35.3	13 38.2	9 26.5	0	35	13 37.1	17 68.6	5 14.3	16 45.07	19 54.3	6 31.6	9 47.3	4 21.1
化学療法以後	昭和26~34年(9年間)戦後	L 型 (結核合併) (16 例)	輕中等症	2 0 0	3 2 9	3 0 1	0 2 5	0 0 3	0 0 0	5 2 9	2 1 0	3 1 8	0 0 1	0 0 0	5 2 9	5 0 7	0 0 2	0 0 2
			計 %	2 12.5	14 87.5	4 28.5	7 50	3 21.5	0	16	3 18.8	12 75	1 6.2	0	16	7 43.8	7 43.8	2 12.4
		T 型 (結核合併) (8 例)	完輕中等症	3 1 0 0	0 1 2 1	0 1 0 0	0 0 2 0	0 0 1 0	3 0 0 1	3 2 2 1	3 0 2 0	0 1 2 1	0 1 0 0	0 0 0 0	3 2 1 0	0 0 2 0	3 2 2 1	0 0 0 0
			計 %	4 50	4 50	0 25	2 50	1 25	0	8 37.5	3 50	4 50	1 12.5	0	8	0 0	8 8	0 0
		總 計 %		6 25	18 75	4 25	9 50	4 25	0	24	6 25	16 67.7	2 7.3	0	24	7 29.2	15 62.5	2 8.3

表 3 (続き)

治療年代	病型	全身結核分布			腸結核及び結核性腹膜炎					腎結核	喉頭結核	骨結核	結核性肺炎	肝・脾・肺・結核変	(全身粟粒結核)
		結核病勢	有・無程度	輕中等重症	一	+	輕	中	強	(結核病変及び臨床症状) 著明なものについて					
化学療法以前 (大風子油時代)	大正 18 昭和 16 年 (18 年間) 戦前	L 型 (結核合併 214 例)	輕症	0	35	0	0	0	0						
			中等症	0	15	0	0	0	0						
			重症	0	20	144	48	75	21	5	15	2	5	30	
			計		70	144	48	75	21	5	15	2	5	30	
			%		66.7	33.3	28.4	57.1	14.5	2.3	7.0	0.9	2.3	14.0	
		T 型 (結核合併 74 例)	完治	0	16	0	0	0	0						
			輕症	0	2	0	0	0	0						
			中等症	0	9	0	0	0	0						
			重症	0	6	41	2	36	3	5	3	1	6		
			計		33	41	2	36	4	0	5	3	1	6	
			%		44.6	55.4	14.9	87.8	7.3	6.8	4.1	1.4	8.1		
			總計		103	185	50	191	24	5	20	5	6	36	
			%		35.8	64.2	27	60	23	1.6	6.9	6.7	2.2	12.5	
	昭和 17 25 年 (9 年間) 戦中	L 型 (結核合併 22 例)	輕症	0	4	0	0	0	0						
			中等症	0	12	6	0	4	2		3	1		4	
			重症	0	12	6	0	4	2	0	3	1	0	4	
			計		16	6	0	4	2	0	3	1	0	4	
			%		72.7	27.3		66.7	33.3	13.6	4.5			18.2	
		T 型 (結核合併 13 例)	完治	0	4	0	0	0	0						
			輕症	0	2	0	0	0	0						
			中等症	0	4	0	0	0	0						
			重症	0	1	2	0	1	1	1	1	1	0	0	
			計		11	2	0	1	1	0	1	1	0	0	
			%		84.7	15.3		50	50	7.7	7.7				
			總計		27	8	0	5	3	0	4	4	0	4	
			%		77.1	22.9		62.5	37.5	1.2	0.6			1.2	
化学療法以後	昭和 26 34 年 (9 年間) 戦後	L 型 (結核合併 16 例)	輕症	0	5	0	0	0	0						
			中等症	0	2	0	0	0	0						
			重症	0	6	3	0	1	2	1	1				
			計		13	3	0	1	2	0	1	1	0	0	
			%		81.2	18.8		33.3	67.7	6.3	6.3				
		T 型 (結核合併 8 例)	完治	0	3	0	0	0	0						
			輕症	0	2	0	0	0	0						
			中等症	0	2	0	0	0	0						
			重症	0	0	1	0	1	0						
			計		7	1	0	1	0	0	0	0	0	0	
			%		87.5	12.5									
			總計		20	4	0	1	2	0	1	1	0	0	
			%		83.3	16.7		25	75	4.2	4.2				

表4 癩屍結核合併状治総括

		化学療法以前（戦前） 359 例				化学療法以後（戦後） 101 例							
		L 型		T 型		L 型 大島群 らい研群				T 型 大島群 らい研群			
各	型 総 数	70.6%	254	29.4%	105	64.4%	65	20	45	35.8%	36	15	21
無	結 核 例	15.7%	40	29.2%	31	26.2%	17	4	13	36.1%	13	7	6
		総 計 19.8% 71				総 計 29.7% 71							
結	核 合 併 例	84.3%	214	70.8%	74	73.8%	48	16	32	63.9%	23	8	15
		総 計 80.2% 288				総 計 70.3% 71							
完	治 せ る 初 期 変 化 群	0%	0	21.3%	16	0%	0	0	0	65.2%	15	3	80% 12
二	次 結 核 症	100%	214	78.7%	58	100%	48	16	32	34.8%	8	5	20% 3
	軽 症	16.3%	35	2.7%	2	45.8%	22	5	17	8.6%	2	2	0
	中 等 症	7.0%	15	12.1%	9	18.8%	9	2	7	21.5%	5	2	3
	重 症	76.6%	164	63.8%	47	35.4%	17	9	8	4.3%	1	1	0
重 症 内 訳	肺 癆	42.1%	104	43.2%	32	14.6%	7	5	2				
	腸結核及結核性腹膜炎	9.8%	21	4.1%	3	14.6%	7	2	5				
	腎 結 核	2.3%	5	0%	0	0%	0	0	0				
	喉 頭 結 核	7.0%	15	6.8%	5	2.1%	1	1	0				
	骨 結 核	1.0%	2	4.1%	3	4.2%	2	1	1	4.3%	1	1	0
	結 核 性 脳 膜 炎	2.5%	5	1.4%	1	0%	0	0	0				
	全 身 粟 粒 結 核	4.2%	9	4.1%	3	0%	0	0	0				